

令和元年度 胎内市観光活性化推進委員会 議事録

1 日時

令和2年3月27日（金）午後1時30分～3時30分

2 会場

胎内市役所 大会議室

3 出席委員

高橋晃委員、平川啓一委員、高橋幸直委員、守屋邦彦委員、須貝勝男委員、須貝建雄委員、佐藤稔委員、朽網裕子委員、久世俊介委員、布川拓男委員、真貝佳央梨委員

4 委員会傍聴者

5名

5 会議次第

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) ビジョンの進捗確認及び次シーズンに向けた取り組みについて

6 会議経過

別紙のとおり

会議経過

1 開会

○ 事務局

皆さんこんにちは。本日は、お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。
ただいまから、第2次胎内市観光活性化推進委員会を開会します。

まずはじめに、本日の開会にあたりまして、胎内市副市長の高橋からご挨拶申し上げます。
高橋副市長お願いいたします。

○ 高橋副市長

あいさつ

2 議題(1)会長・副会長選任

委員の互選により、会長に胎内市副市長高橋晃氏が、副会長に胎内市観光協会会長の平川啓一氏がそれぞれ選任された。

3 議題(2)ビジョンの進捗確認及び次シーズンへ向けた取組について

○会長

それでは議題(2)について、事務局は説明をお願いします。

○事務局南波課長

(委員会の目的、議論の進め方について説明)

○会長

今程事務局の説明のとおり本日の議論を進めてよろしいでしょうか。

最初に観光振興ビジョンの個別の具体的プロジェクトについて進捗を確認し、その後で、胎内市全体の入込客数等の指標を確認するというながれで良いか。

○委員全員

(異議なし)

○会長

それでは、事務局は戦略1について説明をお願いします。

○事務局浮須主任

(戦略1について資料3、4をもとに説明)

○会長

皆様方から質問・ご意見をお願いしたい。

○布川委員

資料4の表はロイヤル胎内パークホテルは別か？

○事務局浮須主任

ホテルがやっているものも例えばプロジェクト2などに含まれている。

○布川委員

ロイヤル胎内パークホテル独自のイベント入っていないんですか？この表は限りなくヨリ

シロとかいろいろ胎内に掲載されているものだが？

○事務局 南波課長

胎内レポートや久世さんなど様々なのが入っています。

○布川委員

表を見ればわかるけど、見ない人は？浮須主任の手柄はどうだとか、区別しているのかしていないのか。する必要もないのかな。実績が目標より上回ったというのは、カウントの仕方でもどうにでもなるが、ガイドラインがわからない。このほかにもいろんな体験プログラムがあったはずだけど、ここに載っているのと載っていないのは？その色付けはどうしているのか？

○事務局南波課長

定義があいまいかもしれない。逆に言うとこれ以上にあると考えている。

○事務局浮須主任

可能な限り集計に努めているがすべからく全ては把握していない。我々で戦略的に造成・販売を狙っていったものが主に集計されている。

○佐藤委員

助成金は絡んでますか？周知は？

○事務局浮須主任

周知は主に市外。プログラム造成・展開に助成金等は活用していない。

○会長

プログラムの把握については、把握できる範囲の中で把握していると。そういう理解で。

○事務局浮須主任

次のシーズンにむけたアイデアがあれば、是非委員の皆様からいただきたい。

○朽網委員

次シーズンというと具体的にいつのことか？

○事務局浮須主任

今年の秋冬、来年春夏に向けたアイデアをいただきたい。

○平川委員

この資料には参加人数と販売額しか載っていないが、参加者の満足度とか評価はどういう風にとらえているか。

○事務局浮須主任

体験プログラムの満足度、再来訪意向の意見を聞いている。プログラムのあと、食事もどこで食べるかという設問も設け集計している。

○平川委員

そっちのほうが大事な資料だと思う。満足しているって言っても何に満足しているのか？企画をしてくれと言われるなら、その方がわかりやすい。

○事務局浮須主任

次の委員会の資料になりますが、体験プログラムのアンケートの集計表をつくって皆様と共有したい。

○守屋委員

全体的にどこからどういう人が来ていてその人にこういうものがうけているのか、うけ

ていないのかわかるといい。

○佐藤稔委員

今回山間部のほうに特化している様に見受けられるが、いつもこういうところで意見が出るが海岸部、河川流域部、市街地地域が出てこない。山間部に力を入れているからか。

○事務局課長

観光にも携わってくれる人が山間部側には多い。他の地域でも取り組みたいが、1年目はそこは進んでいない。

○佐藤稔委員

市のほうで海岸部、河川流域部、市街地地域のやり手のきっかけをつくってくればいいのか。

○事務局浮須主任

山間部はこれまでの観光・地域づくりの取組等があり、住民の当事者意識も高い。1年目のスタートで取り組みやすいところから攻めた部分はある。商店街、海岸部等については担い手となる人材を育てていくところからのスタートになる。正直申し上げると時間はかかるが、ビジョンとしてはプロジェクト10番になる。今後進めていきたい。

○高橋幸直委員

資料3の戦略1は定量的な部分取り組みの実績数値が既に次年度の目標を大きく超えている。次年度の設定はどの様にするのか。

○事務局浮須主任

量をこれ以上増やすことよりも、プログラム数は今ぐらいを維持し、その中でヒット商品造成に注力したい。地域としての入込客数・販売金額に寄与するもの。毎週催行できるもの等の開発に努めたい。

○久世委員

今年度ある程度のプログラム数を立案してみて、いろいろなプログラムの感触も確かめた。海岸部のプログラムでいうと、海岸部だけで展開が難しくても、山間部側の資源等と組み合わせればいいのか。一日の時間軸等も考慮してプログラム造成していきたい。

○会長

それでは次の重点戦略について事務局は説明してください。

○事務局浮須主任

(戦略2について資料3、資料5、資料6、資料7をもとに説明)

○会長

今の説明についてご質問・ご意見等はありませんか。

○佐藤稔委員

プロジェクト6について、飲食店等との連携に至らなかった理由は？

○事務局浮須主任

それをやりましょうという場が設定できなかった。いま、売店は個々の売店がそれぞれに取組んでいるが、連携の仕組み等に踏み込めなかった。

○佐藤稔委員

連絡取り合うまでは？

○事務局浮須主任

至っていない。

○佐藤稔委員

それはなぜ？

○事務局浮須主任

正直申し上げれば手が回らなかった。

○守屋委員

中条駅の売店、運営はどちら？

○事務局南波課長

中条開発さん。

○守屋委員

戦略連携会議のミーティングに中条駅側からは参画していないわけですね。

○布川委員

佐藤委員の意見と同じ。前提としてロイヤル胎内パークホテル、道の駅胎内、中条駅観光交流室。これ以外に例えば農協、商工会さんもイメージしての提案だったのかどうか？至らなかった背景がわからない。どういうところをターゲットにしたのかわからない。

○事務局南波課長

観光客にとって核となるものを想定していた。やらなきゃな。こういうところをまとめてやりたいなという。具体的にいまほどあげた3か所以外をどうするかといった検討はビジョン策定時にはなされていない。

○布川委員

身動きとれてないじゃないですか。

○会長

観光物産をどこで売っていきましょうって今までなかった。駅、ロイヤル売店など統一感はない。話し合う場を次年度以降作っていかなければ。

○布川委員

フォローするには悪者作っていかなくちゃうまくいかない。

○平川委員

市内の飲食店・商工業者には温度差がある。やる気のある人をひっぱらないと動かない。

○須貝建雄委員

平川さんの意見で、民間がこういう風にかかわりたいというのは市役所に行けば把握できてるのでしょうか？そういうこと考えると核の部分からやっていってそのあとで手をあげてっていうかんじのほうが。

○会長

そうなると商工会が取り組んでいくのがよいのか・・・

○平川委員

本気でやる気がある人から取り組んでいかないと難しい。商工業者の組合が横並びで進んでいくのは胎内市では合意形成がなかなか大変なのが実情だ。

○事務局浮須主任

このプロジェクトの次年度の方向性として、横並びに全方的に取り組むのではなく、実例を一つつくる方向で進めていきたい。具体的な形を見せないと多くの人の賛同は得られない。横展開はそこから始めたい、と考えているがいかがか。

○佐藤稔委員

観光ビジョンで市外の人相手だから、商店街、お店側は実際に人が来るまではなかなか協力しない。人は先が見えないものに対して手を出せない。ある程度形をつくってから声かけたほうが参加しやすい。

○布川委員

以前やっていた食のわいわい会議は素晴らしいプロジェクトだと思っていた。なぜなくなった。

○事務局南波課長

わいわい会議は私も浮須が商工観光に来た時にはすでになくなっており、細かな経緯は承知していないが・・・。

○守屋委員

会議の立ち上げには私も関わらせていただいた。会議はエネルギー・時間も費やす。常に会議や取組の目的を明確にしていかないと、このでの会議体はなかなか持続が難しいというのはある。

○会長

他にありませんか？事務局からはモデル的に進めたいと提案があったが、この方針に関して反対意見はございませんか？よろしいでしょうかね。

○高橋幸直委員

まずモデルをつくって、それを波及させるっていうのが重要と思う。

○会長

続いて重点戦略3を説明願います。

○事務局浮須主任

(戦略3について資料3をもとに説明)

○会長

戦略3について意見等はありませんか。

○布川委員

(持参した資料を提示して) この「新潟庭園街道」のパンフレット、ルート290号線を軸にした庭園巡りに胎内市だけが掲載されていない。誘われたのか、誘われなかったのか。今後どうなっていくのか。2018年度のパンフレットでは申し訳なかったと思ったのか山間部棚田などの画像が一部掲載されていたが、2019にはまったく掲載されていない。

○事務局南波課長

知る限り市にも観光協会にも誘いはなかった。あくまでも主催者側が良いと思ったのを入れていると思われるが、こちらから入れてくれというのも・・・。

○布川委員

(持参した新聞記事を提示し) 庭園街道の取組は朝日新聞で広告が載っていて、必然的に胎内市は載っていない。

○事務局南波課長

テーマに見合ったものがないと実行委員会から判断されたのか、掲載が見送られた経緯は不明である。

○布川委員

乙宝寺の庭園は見せ方によっては見事ではないか。290号線を逸れても掲載されている事例はほかにもある。村上市の民間団体が主導しているようだが、事情分からない人が見れば「胎内市は何をやってる。」と思われる。このような取組にはすぐに参画してもらいたい。良い所あるよ！と提案するしかない。

○事務局浮須主任

広域の周遊ルートのパンフレットは民間の雑誌社がつくるものから、市町村でつくるもの、県がつくるもの色々あるので、全てに漏れなく載るといのは難しいところもあるかもしれないが、観光地として載せませんかとあれば載せてくださいと積極的に自己主張していく。

○布川委員

庭園街道のパンフレットの財源は補助金で？

○事務局南波課長

詳細は把握していない

○真貝委員

くると胎内の観光バスは冬季運行できないのか？学生は車持っていない。スキー場とか冬の観光に利用できる。

○事務局南波課長

冬季間は、スキー以外のお客さんは少なくなるだろうという予測から、冬はやめました。スキー場へは胎内リゾートが別途バスを出している。予算面での制約もあり、12月までの運行とした。

○平川委員

くると胎内評価としては市としてどう思っていますか？来年度も実施すると聞いているが。

○事務局南波課長

個人的には低調だったと思っております。1年目は試し。バスが動いているから胎内市に来るではなく、乗って降りた先でどのような滞在プランがあるかを、PRも含めて取り組んでいきたい。

○平川委員

デマンド交通も観光客向けには今のままだと使い勝手が悪い。100万円の予算を投入するのであれば、デマンドの利便性を上げる方にもっていったらどうか。デマンドは目的地まですぐにいける。くると胎内は周回ルートなので、乙地区は相当遠回りになる。ただし、デマンドは今のままだと使い勝手が良くない。

○事務局南波課長

デマンド交通については市としてもっと活用してもらおうと全庁的なプロジェクトも立ち上がっている。

○布川委員

コースについて、ロイヤル行って同じ道を帰る。ある客が小林ハルさんのお墓に行きたいといったのでロイヤル胎内パークホテルから橋を渡って案内しました。復路でビール園のあたりに乗降場所を設置できないのか。

○事務局南波課長

中条駅西口を起点に、電車との接続を考えると、コースは今の乗降場所で時間がぎりぎりである。コース変えるのは難しい。

○久世委員

2次交通は観光客にとってはメインではないのでは？大切なのはどこに行き何をするかということ。メイン観光ルートあって、こうこうこれこれを楽しめますというがあってはじめてバスの活用が活きてくるのでは。バス使いませんか？からこういう観光ルートを楽しみませんかに変えてPRしていかないと今年度と同じ結果になると考えています。

○高橋会長

次に進みます。戦略の4番目を説明してください。

○事務局浮須主任

(戦略4について資料3、資料8をもとに説明)

○会長

ご意見等お願いします。

○布川委員

観光ボランティアガイドについては。主体は観光協会か市役所なのかどちらなのか。

○事務局南波課長

主体は両方だと思います。窓口は観光協会さんだがおまかせではない。

○布川委員

全て観光協会にまかせていいのでは。

○守屋委員

ガイドの方向性として、市民が収入を得られる仕組みとするのか、ボランティアな活動で続けていくのかどちらで考えていますか。

○事務局南波課長

市としては将来的には収入につながるような仕組みを構築するのが目指すべき姿だとは思いますが、思うしビジョンもそうした姿を想定しているところですが、当面はすでにいらっしゃる観光ボランティアガイドの皆様の意向をまずは第一に取り組んでいきたい。

○高橋会長

続いて横断的取組について事務局は説明願います。

○事務局浮須主任

(横断的取組について資料3、資料9をもとに説明)

○会長

ご意見等はないか

○布川委員

ディレクターはサポーターに名前が変わった。配置部署は？指揮命令権は？

○事務局南波課長

配置は観光協会。市も当然関わらせていただきながら取り組んでいく。

○布川委員

観光協会さんと並行で走る。市民とかと関わり合いながら方向付けをしていく？サポーターでは補助員の意味合いでは？ディレクターならプログラムを作ったりしてというのは分かるが。

○事務局浮須主任

役割はそこまで変わっていない。地域と関わって観光施設、自然、文化など多様な主体を組み合わせ価値に変えていく。

○布川委員

話を元に戻すとビジョン中にディレクターの文言が10個ほどあった。ビジョンのキーマンがまさにディレクターであった。ビジョンはやらねばならないことだけを書いたと思うが、1年も経たないうちに文言を変えるのはいかがかと思う。問題は費用らしいが計画策定段階で費用の面等は予測がついたのでは？

○会長

経費だけの問題ではなく適切な方が令和元年度に見つけられなかった。将来的にはディレクターの配置を実現できればいいなと思っている。ただ、取組事項として令和2年度にディレクターを配置できるかという現実的に難しい。とは言え、ディレクターが置かれるまで空白のまま期間を費やすわけにもいかない。

○平川委員

確認いいですか？サポーターはこの定義でいいんですかね？ビジョンに書いてあることをサポーターさんにはしっかりやっていただくことで。

○事務局南波課長

お見込みのとおりである。

○会長

では、最後に令和元年度の取組の総括を議論していく。事務局は説明を。

○事務局浮須主任

(資料1にもとづき説明)

○会長

それでは皆様でご議論いただきたい。

○高橋幸直委員

数値をどう解釈してよいかいただいた資料だけではよく見えない。満足度がどうだったかとか収支がどうだったかを紐解かないと。逆に次年度やめたほうが良い施策等はあるんですか？

○事務局浮須主任

体験プログラムでいえば、これまで旅行会社に委託して新潟駅発着の日帰りバスツアーをたくさん造成していた。ライフスタイルの変化からニーズがなくなってきていると考えている。日本人の日帰り客は基本的には車で来る。バス運送付きのプランも一定数残すが、現地集合現地解散型を増やしていく。

○佐藤稔委員

バスツアー、車で来た人が現地で合流というのはできないのか？

○事務局浮須主任

旅行業法の関係でできない。

○守屋委員

足の話の流れで、デマンド交通は利便性上げないと苦しい。いま観光地では配車はスマホで予約ができる方向である。そうした取り組みに経費を割くことはできないのか。

○事務局南波課長

すぐには取り組めないかもしれないが、そうした方向性が望ましいと観光サイドでは考えている。デマンド交通の担当部署につなぎたい。

○佐藤委員

路線バスって今運行していないですよね？デマンドは有料ですね？くるっとは無料ですよ。くるっとも有料にできなかったのか。

○事務局南波課長

有料があるべき姿だが、法律等の規制の関係で、市バスを活用する場合は無償運行が原則となる。予算の無いなかで、スピーディーに事業を展開するために現行の方法で実施した。

○事務局浮須主任

事務局から次年度の方向性について提案がある。令和元年度はインバウンド誘客が全くふるわなかった。それは、当市がターゲットとしている台湾からの新潟空港発着の定期便が飛ばなかったから。現在はエージェントセールスをかけて団体旅行客を引っ張ってくる作戦だが、外国人の海外旅行は個人旅行化が進んでいる。そこを捕まえていかないといけないが個人向けの販売チャンネルがない。令和2年度ホテルさんに協力していただいて外国人向けのOTA等を活用して販売チャンネルをまずは開いていきたい。同時にプログラム策定も進めていきたい。

○朽網委員

予算は？

○事務局浮須主任

特別な予算はない。現行有している予算の範囲でやる。

○朽網委員

ブロガーを呼んで記事書いてもらっても良いのでは。

○高橋幸直委員

F I T呼ぶためのOTAの導入は当社でも見積とっている。しかしコロナの関係で憂慮しているところ。

○事務局南波課長

定住自立圏の取組として、新発田と一緒にエージェンを通じた団体誘客にまずは力を入れ、実績を積みアンケートとりながら、F I T向け施策も将来的に展開していきたいと思っている。

○平川委員

インバウンド誘客、プロモーションにコストがかかる。団体客から個人客を呼びましよう、

よそもやっているからやろうと手を出すのは良いが、コスト倒れにならないように。コストと収益と天秤にかけながら頑張っていたきたい。

○守屋委員

スイスのDMOの取組を見てきた。スイスの中でも胎内市と同じくらいスイス国内ではあまり知られていないところ。そこで実際にやっているプロモーションはインスタなどのSNSをインフルエンサーを活用して記事をあげてもらうもので経費はそれほどかからない。観光地としてのプロモーション、お金をかけるのはその程度が上限で良いと思う。その後、実際に来てもらってインスタとかに挙げていただいて写真映えは意識したプラン等を造成すれば、波及して誘客につながる。

○会長

続いて、質的目標について議論していきたい。まずは目標値を設定することだが、このことについて、事務局は説明を。

○事務局浮須主任

(資料1にもとづき説明)

○会長

今ほどの説明に対し皆様の意見は

○布川委員

設定している数値はどういう計算式で求められている？

○事務局浮須主任浮須

宿泊の満足度については、予約サイトの5段階評価を積み上げたものから胎内市平均を算定している。体験プログラムについては、体験後にアンケート調査を実施したもの。

○平川委員

目標だけ立ててもあまり意味がない。(例えばロイヤル胎内パークホテル・奥胎内ヒュッテ等)市が手付けられるものじゃないと目標作っても意味がない。

○事務局浮須主任

それでいくと、ロイヤル、ヒュッテに限ったものにして胎内市全体の満足度を押し量っていくことになる。あるいは、体験プログラムだけ設定するか・・・このあたり、守屋委員にもお考えをお聞かせいただきたい。

○事務局南波課長

参考値じゃないが、この満足度が高ければ来なくなる地域になるのでは・・・

○守屋委員

そもそもなぜ満足度調査やるのか？来た人を満足させ、それらが口コミとなり、他の観光客を呼ぶ、というのが基本的な考えとしてはある。また、この満足度の指標は単体で追うのではなく、胎内に来た理由と関連させて考えないといけない。観光客は胎内市に、宿泊施設に魅力があっけてきているのか、体験プログラムに魅力があっけて来てるのかの分析が必要。切り分けて考えられるように、数値として備えておくことは重要である。

○事務局浮須主任

分析のための指標として内部で持つておけば良いということか？ビジョン中に目標として掲げるまでは不要ということか。

○平川委員

ホテルの人、体験の人、、、観光地としてはがんばろうってさせなきゃいけない。体験は良かったが、宿泊はみんなで頑張って80にしようねと。自分で工夫してあげてもらわないと数値だけでは意味がない。宿泊施設に言ってあげるほうがいい。

○会長

目標数値についていかがでしょうか。

○守屋委員

満足度も数値だけではなく、何がその満足の要因になっているかを捉える必要がある。ホテルなら料理なのか、お風呂なのか・・・、体験プログラムならガイドさんが良かったのかなど。

○事務局浮須主任

ホテルはホテルとしての満足度を徴していなかったもので、予約サイトのものを使用した。ただ、個別にどこは満足したかという設問はある。

○守屋委員

であれば、宿泊サイトの評価とホテルで徴しているアンケートを見比べて、このホテルはどこがよくて満足度が増えているのかを一応は推測できる。何をどうすれば満足度が上がるのかを分かるようにすることが重要である。

○会長

では、設定目標ですが、事務局案を一旦採用し、基準にした上で取組を進めてみるということではよろしいか。

○各委員

(異議なし)

○会長

すべての議題を終了しました。進行を事務局に戻します。

4 閉会

○事務局南波課長

長時間の議論、ありがとうございました。次の委員会は半年後に行いたいと思います。結びといたしまして、副会長でございます平川委員からご挨拶を頂戴したいとおもいます。

○平川委員

(あいさつ)